

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970800866
法人名	NPO法人
事業所名	グループホームふるさと敷島
所在地	〒 400-0124 山梨県甲斐市中下条1603-1 電話番号 055-277-8408

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年9月10日

【情報提供票より】平成19年7月10日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月19日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	11人	常勤	9人	非常勤 2人 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造一部木造 造り
	2 階建ての 0 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	68,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有() <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 H19・7・10 現在

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	71歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花の丘たちかわクリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年9月10日

幹線道路から500メートル程入った住宅地に立地し、ホームの前には畑や空き地がある。通学路となっているホーム前の道路は道幅も狭いため、日中でも通過する車は多くない。ホームの玄関は日中開放されており自由に入出し、当たり前暮らしを継続する条件が整っている。地域の自治会活動に参加するとともに、ホーム主催の夏祭りなどの行事に地域の方々を招いたり、日ごろから、利用者に声がかけられるなど、地域とのよい関係が築かれている。利用者のペースや意向を大切にしながら自立支援を念頭においたケアを行い、排泄の自立など成果も見られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	・トイレの段差を緩和するため入口にスロープをつけたが、多額の費用がかかるトイレ、浴室等ハード面の改修は、課題となっはいるが、着手できていない。・市町村との連携については、運営推進会議を立ち上げたこともプラス要因となり、ホームに対する理解と協力が得られ相談しやすくなった。・研修への出席は各職員が年に1回を目標とし、研修内容は全職員に伝達することにした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義・目的について説明したうえで、あらかじめ自己評価票用紙を全職員に配布し、各自が評価事項についての考えを持って検討会に出席し、全職員でホームとしての自己評価を話し合った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	グループホームでの暮らしぶりの紹介、外部評価結果の報告、ヒヤリハット事例の報告、身体拘束排除の取組などについて話し合った。その結果、無断外出者の安全確保策の一環として地元警察等の協力も得られるように、家族の了解のうえで必要な情報提供をすることになった。また、認知症ケアに関する地域の老人会学習会に協力してほしいとの希望が出されたので、随時対応したいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情などを話しやすくするために、担当制としてみたが、苦情等はあまり寄せられていない。苦情等が出しにくい家族の心情に配慮して、家族会における家族同士の意見交換の機会づくりを検討したいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、会合にも出席するとともに、地域の防災訓練や河川清掃、祭典等にも参加している。また、ホーム主催の夏祭りには近隣住民にも案内を出し、模擬店や歌手の歌で楽しいひと時を過ごし交流を図っている。ホーム前が通学路になっており子どもが遊びに来たり、周囲の畑の人からは野菜が届けられたり、散歩時に声がかけられるなど、地域とのよい関係が築かれている。

2. 調査報告書

事業所名: グループホームふるさと敷島

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもとで、できる限り自立し尊厳を保った生活が営めるように支援することを理念としている。地域でその人らしく生活することの支援については、地域住民との交流はあるものの、理念として位置づけるまでに至っていない。	○	地域密着型の趣旨をふまえて、「地域の中でその人らしい生活を継続できるように支援する」考えを理念に位置づけることにより、家族や友人、地域住民とのより一層の交流を図り、その絆を保ちながら生活が送れるような取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	従来理念について、管理者と職員が共有し、本人の意向を聞きながら可能な自立を目指したケアを提供することにより家庭的な生活を継続できるように支援されている。	○	地域密着型に位置づけられたことによる新たな理念を全職員が共有し、それに沿った実践の強化を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、職員が会合に出席し、地域の防災訓練にも参加している。ホーム主催の夏祭りには歌手を招き模擬店を出すなど、利用者、家族、近隣住民が、ともに楽しみ交流する機会をつくっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、ケアの向上のための評価の意義を理解し、職員個々の意見を出し合い全職員で検討している。また、評価結果を改善に結びつけるために検討し、研修参加などは改善できているが、ハード面の課題では解決に至っていないものもある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者とその家族、民生委員、市担当課長、運営者、管理者、職員等で構成している。議題は、ホームでの暮らしぶりの紹介、外部評価結果、ヒヤリハット事例、身体拘束排除の取り組み等であった。行政等から感染防止の注意喚起、住民の学習会への協力を求める意見も出された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の創設、行政の支援による市内6か所のグループホーム連絡会の設立などをきっかけに、市担当者に対して気軽に相談できるようになった。運営推進会議の議題なども相談しながら、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日常生活ぶりを話したり、体調の変化や受診結果等の報告は、その都度行っている。ホームだよりを年2回送付するほか、行事通知を出している。	○	家族にとっては、利用者の心身の様子や生活ぶりが気になりであり、利用者と家族のつながりを維持することに役立つためにも、例えば、毎月の精算書類等の送付時に簡単なメモを添えるなど、定期的に利用者の情報を家族に届ける工夫を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等を話しやすくするために担当制を取り入れ、利用者ごとの情報の収集・整理を分担している。	○	世話になっている立場の家族から不満や苦情は出しにくいことに配慮して、外部者(第三者委員等)、家族会など苦情等を表現しやすい機会・場づくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代が利用者の負担にならないように、退職予定者が引き続き1か月間勤務し、利用者が新任者に徐々に馴染むことができるように、1か月かけて引き継ぎをした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修への参加には、積極的に勧め、支援がされている。参加者は研修内容を全職員に伝達している。参加希望の申し込みをしても、受け入れ人数に制限があり受講できないこともある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し研修会にも参加している。さらに、今年度は市内のグループホームが連絡会をもつことになり、各グループホームに会場を持ち回りにして情報交換を行うことになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員2人で何回か家庭訪問したり、利用者がホームの見学を何回か繰り返して、ホームの雰囲気や他の利用者にも馴染む機会を設け、徐々に馴染みながら利用を始めることができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の愚痴などにも耳を傾け、励ましの言葉をかけてくれることもあるという。また、裁縫の特技を持つ利用者に繕い物をしてもらったことなどありがたかったと話し、職員と利用者の支え合いの関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情や仕草などのわずかな変化にも気をつけており、随時に1対1で話す機会をつくるなどして、利用者の意向や思いを把握したり、利用者の様子やつぶやきなど観察、聴取したことを「気づきメモ」用紙に記録しておき、カンファレンスで活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを取り入れて課題の把握に役立てたり、面会時の家族との会話から得た情報や気づきメモなどの情報をふまえて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月中旬に定例でカンファレンスを開催し、利用者全員のモニタリングを行っている。一人ひとりの介護計画の見直しは、少なくとも3か月に1回は行い、変化があればその都度に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の病院受診や面会家族の送迎、外泊の送迎など、要望や必要に応じてサービスとして支援している。夜間等に利用者の体調変化などがあつた時には、看護職である運営者が応援する態勢が取られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関の担当医をかかりつけ医とし、受診支援をしている。同行した場合の受診結果は、その都度に家族に電話で連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のことについては、入居時に家族がもっとも心配する事項であり、家族の意向を聞いてはいるものの記録を残していない。また、ホームでの終末期ケアについては十分な話し合いがされていない。	○	重度化した場合のあり方について、入居時及び状況の変化時などに繰り返し、利用者・家族の意向を確認し、かかりつけ医との話し合いなどを行って、ホームの支援方針も明確にし、全職員が共有して統一した支援がされるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないように、丁寧な言葉づかいや対応がされている。居室への入室時は必ずノックすることになっている。また、個人情報の取り扱い、特に秘密保持については全職員から誓約書をとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食後のひとやすみの時間帯などに、その日をどのように過ごしたいか利用者ごとに希望を聞く機会を持ち、利用者の希望に沿った過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは、協力医療機関の栄養士の協力を得て作成し、利用者の希望を聞きながらアレンジしている。利用者は食材の下ごしらえ、お膳立て、使用後の食器のとりまとめなどを行っている。職員一人が利用者と一緒に食事し、他の職員は周囲で介助している。	○	食事が楽しみなものとなるように、利用者が食事づくりに参加し力を発揮しやすくするため、調理する場所の改善が望まれる。また、小人数で食事できる食卓の配置を工夫したり、職員も食卓につき、一緒に食事しながら介助をすることを工夫するよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間帯に、希望する回数の入浴ができるようになってきている。実際には、朝や夜間の希望もなく午後の入浴が多くなっている、なかには、入浴したがる利用者もいるが、週2回は入浴又は、シャワー浴をするように支援している。	○	使用していない大浴槽のある広い浴室の片隅の浴槽で、落ち着いて入浴できないかもしれない。浴室の環境を整えるよう工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	早朝に新聞の取り込み、水やりや園芸作業、カラーボックスの組み立て、体操指導、食事開始の声かけ、ランチョンマットの準備・後かたづけなど、それぞれが経験等を活かした役割を果たすことができるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、短時間でも戸外に出るように支援している。外出目的は食品や雑貨等の買い物の希望が多く、楽しみにしている。毎月、利用者の希望により外食の機会も設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放している。居室も掃き出しのガラス戸になっており、外側に転落防止の柵が設置されているものの圧迫感はない。時には、外出する利用者もいるが、見守りに心がけており大事に至ったことはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は3か月に1回実施し、職員の非常招集訓練は6か月に1回実施している。運営者は5分以内に到着できる態勢であり、管理者・職員も短時間で到着できる。地域の防災訓練にも積極的に参加しており、近隣の方々には日ごろから協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に合わせた栄養摂取や水分摂取を支援している。栄養のバランス等に配慮するため、協力医療機関の栄養士の協力を得て食事の献立作成をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植栽などで家庭的な雰囲気づくりがされ、食堂は明るく近隣の畑の野菜などが見えて季節感も感じられる。割烹旅館の台所であり、ガス台を利用者が使用する場合に安全上の不安がある。トイレもスロープや手すりが設置されているが、入口は狭く床も滑りやすい。浴室は使われていない大浴槽もあり広過ぎて落ち着かない。	○	料理人専門の台所であったため一般人には使いにくい。高齢者が安全に負担なく使える設備とし、食事づくりをおして利用者の力を引き出し発揮することを支援してほしい。また、浴室やトイレも生活の快適性を確保する要件として重要と思われるので、使い勝手のよいものに改善されることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小テーブル、籐いす、整理ダンス、仏壇、冷蔵庫など一人ひとりの利用者の馴染みのもの、大切なものなどが持ち込まれて、安心して過ごせる場づくりの支援がされている。		